




## Prosper S10 を活用したバリエブル印刷+2色刷りで、他社には真似のできない仕事、当社にしかできないオンリーワンの仕事を目指しています。

多ウェブ印刷やワンパス加工に続く、新しい付加価値を追い求めて商業オフ輪に Kodak Prosper S10 インクジェットプリンティングシステムを4ヘッド搭載。新聞から一般商業印刷物まで、斬新なアイデアでバリエブル印刷を積極的に活用。

### 新聞印刷と商業印刷を両翼に「発想から発送まで」カバーする総合印刷会社

株式会社高速オフセットは、新聞印刷から一般商業印刷まで幅広い印刷事業を展開する毎日新聞グループの総合印刷会社である。毎日新聞をはじめ、スポーツ紙や業界紙など数多くの日刊紙を印刷するほか、自治体・官公庁の広報紙誌、一般企業の各種販促ツール（カタログ、パンフレット、チラシなど）、帳票類、書籍、記念誌・社史など多種多様な印刷物の企画から編集デザイン、印刷・製本・後加工まで一貫したサービスを提供している。大阪市北区に本社を構え、大阪、

岡山、関東に合計6つの生産拠点がある。新聞オフ輪は9台、商業オフ輪は10台、さらに枚葉印刷機4台、フォーム印刷機4台など、プリプレスから後加工まで業界トップクラスの設備と能力を完備し、顧客のあらゆるニーズに対応している。なかでも堺市にある商業印刷部門の中核拠点、商業印刷センターでは、複数の商業オフ輪を連結した多ウェブ印刷（4in1、3in1、2in1）や、ワンパスでのハガキ貼付け、ミシン目入れ、グルー製本など付加価値の高いサービスで差別化を図り「多ウェブ印刷=高速オフセット」というポジションを確立している。新聞印刷と商業印刷というふたつの分野で培われた技術や経験を相互に活用

しながら、他社にないサービスを次々と生み出してゆくのも、同社の強みに他ならない。その延長線上に、今回のKodak Prosper S10 インクジェットプリンティングシステムの導入があった。

### 西日本初! 商業オフ輪に Prosper S10 を4台搭載

同社が Prosper S10 を導入したのは2015年2月のこと。商業印刷センターの商業オフ輪5号機の更新にあわせて、隣接する6号機に4台（2列×2ヘッド）の Prosper S10 が搭載された。この5号機と6号機は連結稼働（2in1）によっ



取締役 印刷本部長 商業印刷センター長 赤尾 一 氏



商業印刷センター 商業印刷部 部長 竹林 徹 氏



商業印刷センター 商業印刷部 印刷課 課長 三藤 準二 氏



2列×2ヘッドで幅20cm、2色印刷が可能な Prosper S10



「印刷タイムス」ではバリエブル印刷によるスタンプラリーを実施



選手写真をバリエブル印刷し好評を博した「毎日新聞」

て、タブロイド判で最大16頁の印刷が可能になる。今回、Prosper S10を導入した理由について、取締役印刷本部長 商業印刷センター長の赤尾氏は次のように話している。

「今回の機器更新に際しては、5号機と6号機でどうシステムを構築するのか、他社にはない新しい付加価値の創出ができないかを考えました。まずは、現在保有の加工機には無い新しい機構を取り入れる、すなわち、より複雑な加工で付加価値を上げるとことを検討しましたが、関西圏はロットが少なく、仕事替えに手間がかかる加工機で稼働率を上げることは困難であるという課題にぶつかりました。その一方、Prosper S10はバリエブル印刷が可能で、仕事替えが容易なので、多品種極小ロットの付加価値向上に役立つと思ひ、導入を決断しました」

赤尾取締役が、コダックのインクジェット装置に着目したのは4年前に遡る。既設の商業オフ輪に追加装備できないかを模索していたが、当時はバリエブル印刷の市場ニーズが充分ではないと先送りになっていた。その意味で今回は満を持しての導入となった。機種設定では他社製品とも比較したが、高速オフ輪に追随できる印字スピード、品質、性能面で満足できる製品は「コダックしかなかった」と赤尾取締役は断言している。

## 10段ブチ抜きの見出しや人物写真をバリエブルで印刷

Prosper S10の導入からわずか1年で、同社は独創的なアイデアを活かしたハイブリッド印刷の仕事を次々と生み出していった。「JP2015 情報・印刷産業展」では、会場で配布された「印刷タイムス」の紙面でバリエブル印刷によるスタンプラリーを実施した。これは一面に印字された3

社のブースを回り、スタンプを集めるとプレゼントがもらえるという集客キャンペーンで、2万部すべてをバリエブル印刷した。会期終盤にはプレゼントが足りなくなるほど好評で、次回に向けた新しいキャンペーンの企画も進んでいる。毎日新聞ではスポーツイベントでバリエブル印刷を活用した広告企画を展開した。ひとつは「社会人野球大会」の4頁抜き刷り広告で、紙面左側の柱見出しが広告主向けにアレンジされている。4種類・各1万部と種類は少ないが、10段ブチ抜きの見出しをProsper S10で印字して読者の目を釘付けにした。「バスケットボール女子日本リーグ」では、開幕戦の会場で配布する特別版で、広告主であるJX-ENEOS サンフラワーズの選手写真をバリエブル印刷し大きな反響を呼んだ。

## バリエブル印刷プラスαで自社にしかできない仕事を創出

新聞だけでなく一般商業印刷の仕事でも、店名差し替えやナンバリングなど実績を積み上げてきた。商業印刷部 部長の竹林徹氏は「バリエブル印刷がきっかけとなって、引き合いや問い合わせ、新規受注にもつながっている」と具体的な成果を挙げてくれた。

「最初のオーダーは40店舗の差し替え印刷2万部でした。B4判冊子で中とじも必要なかったので、オフ輪2台による多ウェブ印刷で、バリエブルから後加工まで一気に仕上げました。そのスピードには立ち会われていたお客様も驚かれました。これまでは店舗名を追い刷りして、手作業で丁合ひしていたようです。これがきっかけとなって、差し替えのない分もあわせて合計10万部の新規受注につながりました」

バリエブル印刷の難しさと面白さについて語る

のは、印刷課 課長の三藤準二氏だ。「バリエブルの印刷品質は人間の目で確認できません。また一枚も無駄にできないので今までにない緊張感があります。ただ、見たこともない印刷物がつくれるので、やりがいを感じています。今後は技術面でコダックさんの協力を得ながら、欠番管理など技術力を高めて次のステップへと進んでゆきたいと思っています」

同社はProsper S10を付加価値を生む装置と位置付け、システム全体で「他社には真似のできないもの」「自社にしかできないもの」をつくることを目標としてきた。最大印字幅20cm、2色印刷が可能で2列×2ヘッド仕様としたことも差別化のひとつ。赤尾取締役は「Prosper S10は、不可能だったことを自動化、システム化できた」と話している。このProsper S10に多ウェブ印刷やミシン目入れなどプラスαの機能を組み合わせることで、文字通りオンリーワンの製品が生まれるのだ。すでにバリエブル+ミシンによるクーポン印刷なども視野に入れているようで、Prosper S10の活用の幅はより一層広がってゆくだろう。

## 株式会社高速オフセット



代表取締役社長：橋本 伸一

商業印刷センター所在地

〒590-0907 大阪府堺市堺区緑町3丁139番地

TEL: 072-227-0185 / FAX: 072-227-2964

http://www.kousoku-offset.co.jp/

## コダック 合同会社

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

http://www.kodak.co.jp